

平成 29 年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 4	公益目的事業 16
主査名	林 克彦 流通経済大学流通情報学部教授	
研究テーマ	宅配便事業における生産性向上のための評価指標と施策に関する研究	
研究の目的： <p>少子高齢化時代を迎えた日本では労働力需給が逼迫し、宅配便を始めとする物流産業では労働生産性の向上が喫緊の課題となっている。宅配便事業者は、ゲートウェイターミナル、チーム集配、受取ロッカー等の物流ネットワークの革新のみならず、ICT・ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボット等の先進技術の活用により、生産性を向上させている。本研究では、宅配便事業者が導入を進めている生産性向上施策と業績評価指標を把握したうえで、宅配便産業の生産性指標や施策について検討する。</p>		
研究の経過（4月～3月）： <p>第1回研究会（5月12日）：本研究プロジェクトのテーマおよび研究方針について議論。報告討議「物流産業と物流事業者における生産性向上のための業務評価指標」（林）、「中国生鮮電商の輸送ネットワーク」（須藤）</p> <p>第2回研究会（6月30日）：報告討議「物流生産性革命 ～ロジスティクス高度化の課題～」(根本)、「アメリカの宅配便における輸送ネットワークの効率化」（齊藤）、「中国保冷宅配便事業における生産性向上のための評価指標と施策に関する研究」（楊）、「宅配便革命 増大するネット通販の近未来」（林）</p> <p>第1回 WG（8月18日）：タイ、インドネシア、シンガポール物流調査の検討。8月21日～8月31日にかけて、宅配便、自動車部品調達物流について調査。</p> <p>第2回 WG（9月27日）：現地調査のとりまとめ。今後の研究方向の確認。</p> <p>第3回研究会（12月15日）：報告討議「シンガポールにおけるネット通販と宅配便に関する現状と課題」（須藤）、「ネット通販増大に対応した多様な配送方式-欧州主要国の事例を参考にした一考察」（林）、「中国における小口保冷配送サービスの現状と展望」（楊）、「中国向け越境ネット通販支援モデルの特性に関する考察」（宮武）</p> <p>第4回研究会（3月12日）報告討議「宅配ロッカーの導入による労働生産性改善効果の検証」（宮武）、「中国における航空貨物と E コマース動向」（林）、「シンガポールにおけるネット通販の成長と宅配便の現状と課題に関する研究」（須藤）、「長距離貨物輸送における海陸複合一貫輸送の実態と労働生産性（根本）</p>		
研究の成果（自己評価含む） <p>物流業の生産性向上のための施策と評価指標について、その必要性を把握したうえで、生産性指標の体系を検討し主要指標の動向を分析することができた。欧州諸国とシンガポールを中心に諸外国におけるラストマイルの効率化施策についても分析を行った。当初の目的はほぼ達成できたと評価している。</p>		
今後の課題： <p>物流業における輸送や労働の実態を正確に示す統計が十分整備されていないことや、宅配便の顧客満足度、消費者の知覚品質、従業員満足度等の定量的な把握が困難なことが課題となっており、今後このような点を補足する調査研究が求められる。</p>		